

消えない幻

ふと途切れた眠りの中
暗闇から見える豆球
ひとり夜の底でまだ震える
あの温もりもうどこにもなくて
ただ指先に冷たい空気
呼びかけることもできないままに

消えない幻 ゆっくり締め付ける
もう戻らない最後の灯火に

ふと現れた記憶の中
忘れていたふりをしていた
手を伸ばせば届くはずとっていた
あの温もりもうどこにもなくて
まだ帰り道を探している
もう戻れないとわかっているのに

この心まだ失ったもの求めて
影の輪郭 探し続けている

消えない幻 ゆっくり締め付ける
もう戻らない最後の灯火に